

熱が出た

逆に36度未満の低体温にも注意!



小児救急電話相談
「#8000」を活用
しましょう

受診前には必ず確認の電話を病院へ!
解熱剤の座薬や頓服をいつも家にストックしてね!
これは痛み止めとしても使えます。
大人に使う薬は子どもには代用禁とします!

「顔色不良」なうえ
(顔面蒼白やチアノーゼ)
「呼吸が弱い」
「意識が無い」
「言動がおかしく
視線も合わない」
「5分以上のけいれん」
などの時は
救急車を!

発熱は体の負担となりますが、**防御反応のひとつ**

人間はウイルスや細菌などの病原体に感染すると熱を出して、体内に入り込んだ病原体の活動を抑えようとして
ます。平熱よりも1度以上高く、環境を整え、時間をおいても下がらないなら発熱といえます。他にもいつも
と違う様子が無いか確認しましょう。(普段から体温をはかり平熱を知っておくことも必要です)
赤ちゃんは体温調節機能が未熟なため、室温や衣類の着せ方によって体温が上がることもあります。

発熱で一番怖い病気の代表が「**髄膜炎(ずいまくえん)**」です

発熱+嘔吐+頭痛(赤ちゃんなら不機嫌・不活発)と3つ症状が揃えば「髄膜炎」の可能性が
髄膜炎の場合、頭や首などが痛くて首を前に曲げにくくなります。ですから、もしお子さんが、お気に入りの
おもちゃを下に置いて、あごが胸に付くくらい視線を落とし、機嫌よく遊べていれば、髄膜炎の可能性は低い
と思います。ただし乳幼児期にはそういう症状が出にくい場合もありますので、3つの症状がある場合は早期
相談・早期受診が必要です。

★子どもの急な発熱で受診をした方が良いか悩んだときは、
小児救急電話相談「#8000」を利用しましょう。(詳しくは表紙を参照)

熱が下がった

様子を見る

★逆に36度未満の低体温
の時も要注意・要相談!

37.5度以上
38度未満のとき

発熱以外はいつもと変わらない
機嫌・活気・哺乳力も普通で
顔色も良く、周りに興味を示す

診療時間内にかかりつけ医院へ



ガーゼ
ラップ
オムツ
オムツをしている子の尿採取方法
自宅で受診する前にセットすると
受診時の尿検査がスムーズです。

機嫌が悪い、または
発熱以外にいつもと
様子が違う

診療時間外でも電話相談して
受診場所や時間を決めておく
(左記の月例別対応や他症状の
チャートも参考に)

1回目の体温測定後、適切な室温や衣服で
安静にさせ、30分後にもう一度測る

38度以上のとき

発熱以外にいつもと
変わらない
機嫌・活気・哺乳も
普通に興味を示す

診療時間内にかかりつけ医院へ

赤ちゃんが4か月以上
(通常3か月未満のこと)

機嫌が悪い、または
発熱以外にいつもと
様子が違う

診療時間外でも電話相談して
受診場所や時間を決めておく
(発熱対応や他症状のチャート
も参考に)

赤ちゃんとママが4か月以上

機嫌が悪い、または
発熱以外にいつもと
様子が違う

診療時間外でも電話相談して
受診場所や時間を決めておく
(発熱対応や他症状のチャート
も参考に)

✓ 医師に伝えること

- ・熱は何度あるか
- ・熱はいつごろからか
- ・熱以外の症状について
- ・食事や水分は取れているか
- ・おしっこが出ているか

全てのチャートはあくまでも目安です。症状は人によって異なる
ため様子をよく観察し、心配な時は受診すべきかどうかを電話で
相談しましょう。

出来るだけ早く小児科を受診!
救急車の必要があるかどうかは
上のイラストの
「コメントを参考に!」
わからない時は電話相談!!



重症感が無くても時間外でも
(必ず電話相談して) 小児科を受
診すること
発熱以外にも症状の悪化があれば
速やかに小児科を受診する
1か月未満の赤ちゃんは入院にな
ることが多い